

令和2年度 学力向上指導改善プラン

三田市立上野台中学校長 西村 篤巳

学校教育目標		夢や志をもち、心豊かでたくましく生き抜く生徒の育成			
推進主体		管理職と研究推進担当・生徒指導担当・教科代表により 学力向上推進委員会を設置			
学力に関する前年度の状況・経年の課題等					
学力の状況	全国学力・学習状況調査結果の状況 (国語、算数・数学に関する質問紙調査の結果も含む)	国語	<ul style="list-style-type: none"> ○平均正答率は、全国平均を上回っている。 ○「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域の正答率は全国比+8.8ポイントであった。 ○「言語についての知識・理解・技能」の正答率は全国比+8.8ポイント、「書く能力」は 全国比+2.7ポイントであった。 ◆問題形式「記述式」における正答率は、全国比-3ポイントであった。 		
		数学	<ul style="list-style-type: none"> ○無解答率が低く、問題を解こうという意欲がみられる。 ○正答率は「図形」の領域は全国比+5.3ポイント、「数と式」の領域は 全国比+8ポイントであった。 ◆「関数」の領域の正答率は、全国平均を下回っている。 		
	定期テスト、単元テストなどによる状況(各教科)	<ul style="list-style-type: none"> ○学年が進むにつれて、テスト勉強に対する意欲の高まりがみられる。 ◆生徒自身が学習方法を工夫することに課題がある。(経年) ◆どのように家庭学習の習慣づけを図るかについては、継続した課題である。 			
	授業等からうかがえる状況(各教科)	<ul style="list-style-type: none"> ○グループワークや話し合い活動に積極的に参加し、問題解決を図ろうとする意欲は高い。 ○「ひょうごがんばりタイム」を活用した、放課後教室や質問教室などへの参加者が増加した。 			
学力生活上に係る学習習慣・状況	全国学力・学習状況調査の質問紙の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○「家の人と学校の出来事について話をしますか」については、肯定的な回答が全国平均と比べて高い。 ◆「家で、学校の予習・復習をしていますか」については、肯定的な回答が全国平均と比べて低い。 			
	学校評価などのアンケート調査による児童・生徒の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○授業のわかりやすさに関する肯定的評価が80%を超えている。 ◆家庭学習の習慣ができていないについて「できている」の回答率が低い。 			
校内の研究・研	校内研究の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○授業力向上に関する教員の意欲の高まりがみられる。 ○「脱講義型」「脱活動主義型」をキーワードにした授業開発が進んでいる。4実践の授業公開を行った。 			
	校内研修の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○大学との連携による研修会を実施した。 ○幼少中で育てたい上野台の子ども『みんなで育てよう』の再検討を図った。 			
家庭・校種間連携	家庭・地域等の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○学校だより、学年だよりを活用し、継続して家庭や地域への啓発を行った。 ◆家庭学習の習慣については、課題がある。どのような家庭学習がのぞましいか検討している。 			
	小・中における教科連携等の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○小中できることができる学習習慣・学習規律について協議する合同研修会を開催し、情報の共有化を図った。 ○4小学校合同で、小学6年生対象の体験授業(英語)を中学校にて行った。 			
		4月	2~3月		
		学力向上に向けての重点的な目標	年度末評価		
		(指標となる数値等)	(今年度の成果と来年度に向けた課題等)		
		具体的な行動目標	評価		
		<p>①学力向上へ向けた授業改善の推進 【「脱講義型・脱活動主義型」に基づく授業開発、家庭と連携した学習環境づくりの推進、学び方を考える機会の確保】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師を招いた授業研究会を年間2回以上開催する。 ・授業公開期間を実施し、相互研修を行う。 ・教科横断的な視点でカリキュラムマネジメントを推進する。 ・家庭学習の効果的な進め方に関する啓発を年間2回以上行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習意欲を高め、学ぶ姿勢づくり、授業規律や学習規律の徹底と学習形態の工夫を行う。 ・家庭学習習慣づくりのために学校として参考例を示し、自主的に学習にのぞめる環境づくりを進める。 ・授業改善を推進し、生徒が「楽しい」「できた」「やった」と実感できる授業実践を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒質問紙調査における項目「2. 上野台中学校の先生について」で「授業がわかりやすいように工夫している」の項目で肯定的評価が89%であり、教員の授業改善の取り組みが生徒に伝わっている。 ・家庭学習については、習慣化していないところがあり、今後の課題である。家庭学習の内容をあわせて検討する。 	B
		<p>②人権教育の推進 【自他を大切にし、前向き心豊かな生徒の育成(敬愛)(めざす生徒像より) 保護者・地域、専門機関と連携し、協働して、土台となる生徒個々の自尊感情・自己肯定感を育成する教職員(めざす教職員像より)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PTAと共に、全校生徒を対象に人権講演会を実施する。 ・教員対象に人権教育研修会を実施する。 ・小学校ブロック別人権研修会に中学校担当者が参加する。 ・同和教育を要とした研修の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内道徳人権教育推進委員会を中心に、情報交換を行いながら系統だった特別の教科 道徳を行う。 ・校区内小学校とも連携し、小学校ブロック別人権研修会に中学校担当者が参加し、研修・研鑽に努め、全教職員で情報共有する。 ・地域の実態や実践から差別を許さない、差別を見抜く生徒の育成の研修を積み重ねる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内道徳人権委員会が中心となり、年間計画をもとに道徳教育を推進することができた。また、人権教育についてはこれまでの自作教材を改善に取り組むことができた。 ・新型コロナウイルス拡大防止対策と人権擁護の観点から、休校明けに啓発DVD「花開く明日を取り戻せ」を作成し、コロナ禍におけるのぞましい人間関係づくりについて考える機会をもうけ、組織的に対応することができた。 ・関係各所との連携については、なかなか進めにくい現状があった。 	B
		<p>③特別支援教育の充実 【すべての生徒にとって分かる授業や達成感を感じる活動の工夫と充実。「チャレンジ」「ステップ」学級の充実と支援の工夫。支援を必要とする生徒の理解と支援の工夫。】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回相談、教育相談を学期に1回以上実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・巡回相談・教育相談を活用し、支援を必要とする生徒個々の理解と支援を丁寧に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・巡回相談、教育相談、通級指導の充実を図ることができた。 	A
		<p>④不登校生への支援の充実 【生徒の居場所づくりや専門家・関係機関との連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門家や関連機関、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーを活用した取り組みを進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラー等を活用した研修会を実施する。 ・教育相談や家庭訪問を行い生徒の実態把握を行う。 ・生徒と保護者の困り感を把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・SCとの研修を行った。 ・月1回の「こころのアンケート」をはじめ、生徒の困り感をキャッチする機会をもうけた。 ・保護者との関係づくりがコロナ禍によって遅れた。 	B
		<p>⑤学校園所の連携の推進 【生徒の成長を「線」で捉え、子どもを中心に据えた、生徒が安心して学べる学習習慣づくり・学校づくり。家庭での学習習慣づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上野台中学校区幼小中全教職員対象合同研修会を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習規律、授業規律、生徒指導、特別支援教育、保健指導で幼小中連携の充実を図る。 ・『みんなで育てよう』をもとに実践的な連携を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・合同研修会は実地できなかつたものの、各担当それぞれが校区内の幼小の担当者との密な連携をとることができた。 	A
		<p>⑥地域との連携の推進 【三田型コミュニティー スクールの実施により、家庭・地域との連携のさらなる充実生徒の地域貢献活動・体験活動を工夫し、学校・家庭・地域がつながるより良い教育環境づくり。多様な地域や外部の教育力の活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の教育力の活用をより一層進め、生徒の地域貢献活動や生徒会・部活動等でのボランティア活動を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域や保護者のボランティアでの協力を進め、地域のまつりや地域の奉仕活動等に中学生がボランティアで参加できるように地域や家庭と協力して取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会本部役員及び有志の生徒たちを中心に「虹プロジェクト」をさらに充実した活動にした。また、「虹プロジェクト」をはじめた20歳になる成人に贈り物をおくり。活動をおして新たな人間環形をひろげることができた。 	A